



BC-103

デニムジャケットがモチーフ。裏地は赤いサテンを採用。ユニバーサルなジッパー、肩ブリーツなどヴィンテージスベックも搭載。サイズ34,36,38,40インチ。カウハイド。13万8240円



肉厚かつ柔らかなカウハイドは、エイジングの期待度も抜群。



「10TEN/MAN10」とのコラボTシャツ。メイド・イン・ジャパンのこだわりが息づいた、着心地のよいTシャツだ。ブラック、ホワイトの2色展開。ともに6804円



Beat Canning

ジャストフィットでまとう革の色気

着れば一気にマニッシュな雰囲気をつくりだす革ジャン。最初の袖通しの硬さに難儀を覚えた方も多いはず。

そこで“着た瞬間、身に沿う革ジャン”をご紹介します。着心地だけでなく、日本人の体型にカッコよく決まるシルエットにもご注目！

文/本誌編集部 写真/麩崎大(WPP) モデル/中村匡志



BC-102

中央ジップに向かって下がるポケットのデザインが、シャープな印象を与えるシングルライダー。左/ブラウンステッチ、右/ブラックステッチ。ともに9万9360円。



BC-101

ヴィンテージ・テイストを随所に盛り込んだ、ブランドを代表するダブルライダー。レザーのツヤ感がたまらない。左/ブラック×ブラウン切り替え、右/ブラック。ともに11万6640円。

徹底的に着心地にこだわった革ジャン
革ジャンに挑戦したが、体になじむまでの硬さに耐えられなかつたり、サイズが大きかつたり小さかつたりでフィット感が悪く、タンスのこやしになつていくご同輩も少なくないのでは？ そんなトラウマをおもちの方にオススメしたいのが「ビート・キャニング」だ。日本人の背格好にフィットし、スタイリッシュに見えるタイトなカッティング、マテリアルには肉厚でありながら柔らかくしなやかなカウハイドを使用し、徹底的に日本人のための革ジャンにこだわっている。実際に袖を通してみると、ありがちな体を締めつけられるような感覚は皆無。着た瞬間から身に沿う感じがする。そのうえ長く着ることにより革に微妙な凹凸感が表われエイジングが進むとともに、グングンとフィット感も増してくる。今季はデニムジャケットのシルエットをレザーに置き換えての提案。縫製やディテールにヴィンテージテイストを加え、新品なのに初手から風格を携えている。この秋、革ジャン初トライの方はもちろん、再挑戦を考えている方は特に袖を通していただきたいジャケットだ。